

最期のときまで安心して暮らせる
東京を目指して

Active Fukushi



第28号

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

●東京都高齢者福祉施設協議会 広報誌

アクティブ福祉

平成29年2月27日発行

東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト
<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei>

または **東京 高齢協議会** で検索



P2-3

SPECIAL REPORT

平成27年度「特別養護老人ホーム入所(居)待機者に関する実態調査」報告書

P4

TOPICS

西多摩地域特養窓口設立委員会
について

P5

調査報告

特養における利用率及び
介護職員充足状況に関する
実態調査結果

P6

TOPICS

EPA介護福祉士候補者の
受入れについて

P8-9

特集

経済的援助を伴う
総合相談事業についての
調査結果と考察(第4回)

7... ●TOPICS

2施設での合同災害時対応訓練 入所者の移送訓練

10... ●TOPICS

八王子ブロック会による
熊本地震現地視察と義援金贈呈について

11... ●養護分科会

養護老人ホームと地域交流

12... ●軽費分科会

子どもたちを地域で育む

13... ●センター分科会

つながれ ひろがれ ちいきの輪inTOKYO
今年度の振り返り

14... ●東京ケアリーダーズ

東京ケアリーダーズメンバー紹介

15... ●私の心に残るエピソード

「口から食べるということ」

16... ●都民フォーラム2017のお知らせ

編集後記

平成27年度「特別養護老人ホーム入所(居) ～制度検討委員会と生活相談員研修委員会との意見交換～

平成27年度の実態調査「中間まとめ」では、入所(居)待機者減少に的を絞った概要に仕上げ、この「中間まとめ」を材料にした新聞各社の報道(「特養待機者急減 要介護者奪い合い」等)が平成28年7月1日から始まりました。待機者急減の原因が、平成27年度の介護保険法改正(特別養護老人ホームの対象者が原則要介護3以上)にあるとしていました。

最終報告書(10月末日発行)では、回答施設の約8割が「変化なし・増加」傾向を示している状況も分析し、施設形態別ではその約75%が従来型であり、介護保険法改正後、費用負担が少ない従来型を申請している人が多くなっている傾向を確認しました。また、特別養護老人ホームに併設しているショートステイ専用ベットの稼働率(都内平均で79.7%)が低い状況も把握しました。都内でショートステイ定員の約2割のベットが空いている実態を認識し、施設形態別ではどの地域もユニット型が苦戦しているのがうかがえ、負担額の増加が影響している可能性もあるとしました。

12月期・制度検討委員会の定例会は、生活相談員研修委員会と合同で開催し、今回の報告書内容についての意見交換を行いました。参加した生活相談員のほとんどは入所(居)待機者が減少しているという認識であり、経営の視点からは「要介護4、5」で施設ケアに適している方と契約をしたいのだが、そうはいかない待機者の現実があると語っていました。医療依存度の高い方や多様な課題を抱えている方、在宅生活に困難な事情がある方なども前向きに受け入れていくためにも、施設側の受け入れの幅を広げる(受け入れの要件等のハードルを下げる)必要があるとの意見も多くありました。

都内是多摩西部地域での入所(居)待機者が少ない状況があり、最終報告書では都民が特別養護老人ホームを有効活用していくためにも、希望する方が都内の特別養護老人ホームをスムーズに利用できる仕組みづくりが必要であるとしています。

待機者に関する実態調査」報告書

●制度検討委員会 委員長 ^{あべ としや}阿部 敏哉
(社会福祉法人 武蔵野 武蔵野市桜堤ケアハウス 施設長)

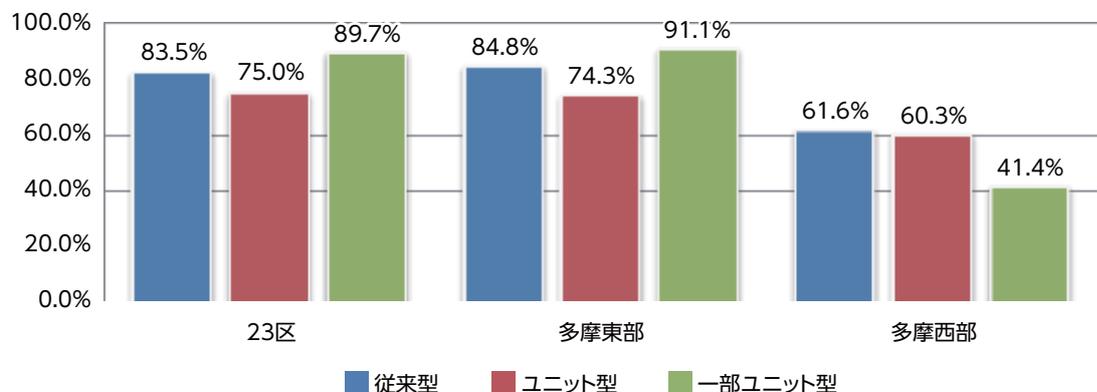
調査概要

- 調査対象 会員の特別養護老人ホーム 457ヶ所
- 調査期間 平成28年1月18日(月)～2月12日(金)
- 回収状況 全体242件(回収率：53.0%。区部：49.4%・市部：57.2%)

●平成25年11月1日と平成27年11月1日での待機者の比較 (N=242)

	全体平均		区部		多摩東部		多摩西部	
	待機人数	1施設平均待機人数	待機人数	1施設平均待機人数	待機人数	1施設平均待機人数	待機人数	1施設平均待機人数
H.25.11.1	82,075	360.0	48,873	444.3	22,120	335.2	11,048	221.0
H.27.11.1	70,229	296.3	42,581	360.9	19,199	286.6	8,431	168.6
減少率(%)	-14.4	-17.7	-12.9	-18.8	-13.2	-14.5	-23.7	-23.7

●平成27年10月実績における併設のショートステイ専用ベット(空床ベット除く)の平均稼働率状況 (N=170)

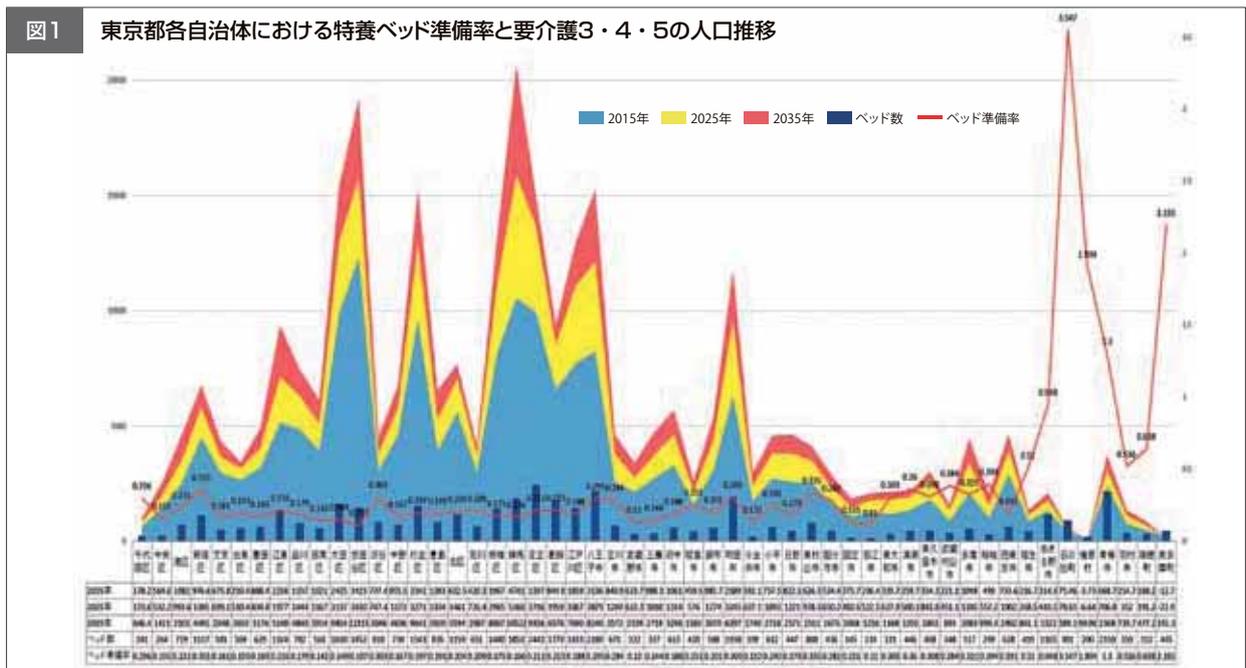




西多摩地域特養窓口設立委員会 について

● 社会福祉法人 福信会 特別養護老人ホーム 麦久保園 事業戦略担当 まえだ たくや 前田 卓弥

「特養待機者急減、要介護者奪い合い」、その厳しい現実の中心が西多摩地域です。西多摩地域の特養がどの程度厳しい環境にいるのか、その指標として下記の図1を参照し、東京都区部の現状と比較して見ていきます。



※東京都各自治体のベッド数は東京都HPならびに各自治体HPから抽出
※要介護3・4・5の高齢者の将来人口については、社会保障人口問題研究所の将来人口に対して、高橋氏による「要介護者出現率」の計算式を用いて筆者が算出。

背面の青・黄・赤のグラフは、2015年(青)、2025年(黄)、2035年(赤)の各自治体における要介護3・4・5の高齢者の人口推移です。次に自治体ごとに、縦に伸びている青い棒グラフが特養ベッド数です。最後に、横に伸びる赤い棒グラフが特養のベッド準備率(要介護3・4・5の人口÷特養のベッド数)です。これは2015年の要介護3・4・5の人口一人あたり、特養のベッドがどの程度準備されているのかを表しています。

これを参照すると、東京都における特養待機者の現状は次のように整理できます。

東京都区部 の特養(待機者)の状況

- 1 (日本一)特養のベッド準備率が低い
- 2 今後も要介護3・4・5の人口増加が著しい
- 3 現在は、千葉県、埼玉県、神奈川県という一都三県で支えられている現状

西多摩地域 の特養(待機者)の状況

- 1 (日本一)特養のベッド準備率が高い
- 2 今後も要介護3・4・5の人口がほとんど増加しない
- 3 特養に入所している多くが地域の高齢者

以上のことから、東京都の特養待機者を取り巻く環境の特徴として以下のように整理することができます。

- 日本一特養ベッド準備率が高い西多摩地域と日本一特養ベッド準備率が低い区部の地域が共存している。
- 今後、高齢者がほとんど増加しない西多摩地域と急激に増加する区部の地域がある。

そこで、西多摩地域で区部の特養待機者に対する支援に取り組むことができないかと考え「西多摩地域特養窓口設立委員会」を開催し、次の検討を行っています。

- ① 西多摩地域の特養共通ホームページの作成
- ② 共通申込書の作成

現在は平成29年4月の実施を目標に、各取り組み内容を検討しています。この取り組みは、これまでのような、一つの法人、一つの施設で活動をするのではなく、地域の社会福祉法人が有機的に繋がり、東京都における特養待機者問題という社会的課題に向き合う取り組みです。その折にはご支援、ご協力を頂けたら幸いです。

調査報告

特養における利用率及び 介護職員充足状況に関する実態調査結果 ～今回調査でも深刻な人材不足は変わらず～

●介護人材対策委員会 委員長 羽生 隆司 はにゅう たかし
(社会福祉法人 賛育会 墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム 施設長)

東京都高齢者福祉施設協議会では、平成26年12月以来3回目の「特養における利用率及び介護職員充足状況に関する実態調査」を実施しました。今回の調査においても依然として深刻な人材不足の状況が続いていることが明らかとなりました。

調査期間：平成28年9月1日～9月26日

対象：東京都高齢者福祉施設協議会 特養分科会 会員486施設

回答：381 施設(回収率 81.4%)

*アンケートの詳細は、
介護人材対策委員会で分析・検討のうえ、
会員の皆様へお知らせします。

施設独自の人員配置基準を半数以上が「満たしていない」

「老人福祉法及び介護保険法が定める基準(3:1)よりも多く、施設独自の基準を計画上定めているか」をたずねたところ、58%が「定めている」と回答。そのうち、その独自基準を「満たしていない」施設は、約53%と今回調査においても半数以上にのぼりました。

施設独自の基準を「満たしていない」施設に対して、その対策をたずねたところ、最も多かったのは「派遣(紹介・紹介予定含む)職員の雇用」63.2%、次いで「職員の超過勤務」60.7%、「求職面接会の開催、参加」53.8%と続いています。「職員の超過勤務」の割合は、前回の調査と比較して約11ポイント増加し、順位も上がりました(図1)。

施設基準を「満たしていない」施設のうち、約47%の施設が6カ月以上基準を満たしていないと回答し、前回と比較して4.6ポイント増加しました(図2)。

図1 人員配置基準を満たしていない際の対策

(n=117) ※複数回答

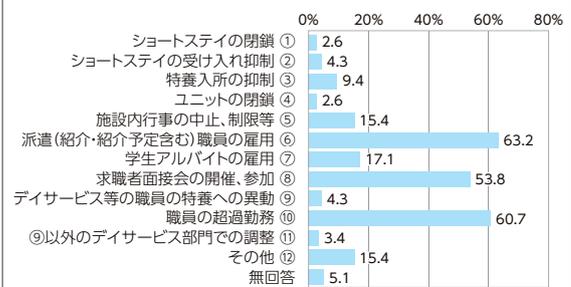
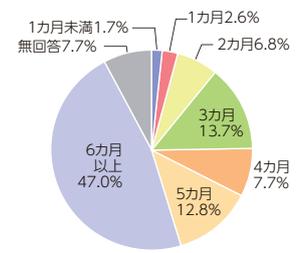


図2 人員配置基準を満たしていない期間

(n=117)



27年報酬改定は約90%が「悪影響」、新規採用半数以上が「できなかった」

「平成27年4月の介護報酬改定は介護人材不足に対してどのような影響を与えたか」をたずねたところ、「大変悪い影響」「やや悪い影響」をあわせ、約90%が悪影響だと回答しました。

「平成28年4月時、必要な介護職員の新規採用は確保できたか」をたずねたところ、約51%が「できなかった」と回答し、前回と比較して約17ポイント増加。また、「平成29年度新規採用」は、80.1%が「できていない」と回答しており、職員の新規採用を巡っては、一段と厳しい状況にあることがわかります。

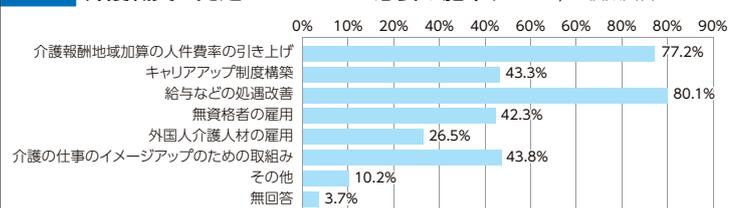
介護職員の充足には、給与などの処遇改善と介護報酬地域係数・人件費率の是正を

「介護職員を充足させるために必要な施策は何か」をたずねたところ、「給与などの処遇改善」が80.1%と最も多く、その前提ともいえる「介護報酬地域加算の人件費率の引き上げ」が77.2%と、前回と比較して3.9ポイント増加しました。その他、「介護のイメージアップ」「キャリアアップ制度構築」「無資格者の雇用」についても4割以上が必要な施策としています(図3)。

自由記述では、「退職者の補充に時間がかかり職員の負担が増加している」「介護・看護職員の紹介料や派遣費用の採用コスト増加が深刻」「人材確保には介護職のみならず全職種の賃金改善が必須」など、さまざまなご意見が寄せられました。

今後は、東京都高齢者福祉施設協議会で検討中の「改定アクティブ福祉ブランドデザイン」ともリンクさせながら、本調査結果の分析を行い、協議会活動へ反映させていく予定です。

図3 介護職員を充足させるための必要な施策(n=381) ※複数回答



EPA介護福祉士候補者の 受入れについて

● 社会福祉法人 清峰会 統括施設長 うちやま しげひろ 内山 重浩

昨今、買い物に行くと外国人の店員さんを多く見かけます。これからは、職場同僚に外国人がいることが当たり前になってくるのではないかと思います。当法人では、特養小峰苑(福島県)において平成21年度よりEPA候補者を受入れ、平成26年度からは、特養浅草ほうらい(東京都)においてEPA候補者を受け入れています。現在は2名の介護福祉士、18名の候補生が就業・研修しており、本事業をとおして職場の活性化・国際交流等が図れるように取り組んでおります。

EPA候補者の受入れ実績

入国年度	国	受入れ施設	介護福祉士	受験者	合格者	帰国者
平成21年度	フィリピン	小峰苑	2名	2名	1名	2名
平成22年度	フィリピン	小峰苑	2名	2名	2名	0名
平成23年度から平成25年度は受入れなし						
平成26年度	フィリピン	小峰苑	2名	—	—	0名
		浅草ほうらい	4名	—	—	0名
平成27年度	フィリピン	浅草ほうらい	4名	—	—	0名
平成28年度	ベトナム	浅草ほうらい	4名	—	—	0名
	フィリピン	浅草ほうらい	4名	—	—	0名

EPA候補者にとって、日本で働く目的が学びであろうと生活のためであろうと、日本での生活には期待と不安が満ちていることと思います。そのため、候補者の受入れにあたっては、候補者が来日した目的と一緒に確認するとともに、介護福祉士試験の合格と日本での有意義な生活ができるよう「心のケア」を大切にしながら取り組んでいます。また、介護の現場で働く場合には、言葉が大きな課題になりますので、日本語の勉強時間の確保と研修責任者を中心にチームワークで候補者を支援しています。候補者はとても丁寧な仕事ぶりで、利用者や家族からも喜ばれることが多く、日本人介護士も見習う点も多くあり、よい刺激となっています。

候補者からは、家族のことや友人のことなど色々な問題があり、介護福祉士の試験に合格しても母国に帰りたいたいの話を聞くことがあります。施設としては、できるだけ長く働いてもらいたいと思っていますが、それもやむを得ないものと考えています。今後、法人としては、日本での就労が候補生にとって「経済的・技術的」な向上が図れ、日本に来て良かったと思ってもらえるような支援体制の構築を目指します。



平成22年度生(家族で日本に在住)



平成26年度生(スキー場にて)

経済的援助を伴う 総合相談事業についての 調査結果と考察

第4回

●東京都高齢者福祉施設協議会 総務委員長・社会貢献事業PTリーダー 田中 雅英
(社会福祉法人 大三島育徳会 常務理事・博水の郷 施設長)

前号では、「総合相談事業における経済的援助の課題」について結果と考察を報告しました。本号では、「自由記述」について分析をしていきます。つぎの3つの方法で考察を行いました。(1) カテゴリの分類に関する考察、(2) 特定語の抽出に関する考察、(3) 経済的援助に対して肯定的か、否定的かに関する考察。

今回は(1) カテゴリの分類に関する考察です。

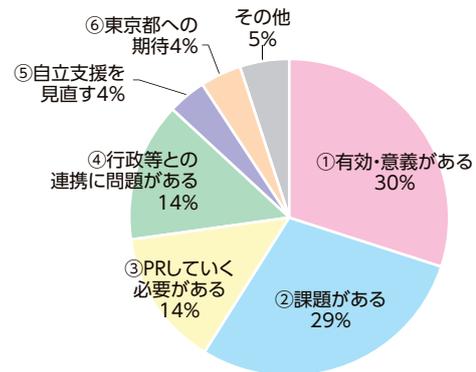
1 回収数及び回収率

回収数：50施設 回収率：27.9%

2 結果

(1) カテゴリによる分類

得られた回答をカテゴリに分類しました。施設長が、総合相談事業、経済的援助をどのように認識しているかを明らかにするためです。分類するにあたっては、ひとつの文章がひとつの意見を表すように単文にあらため、これらを7つのカテゴリに分類しました。原文例の一部を示します。



カテゴリが全体に占める割合

①有効・意義がある：17件 (34.0%)

- 経済的支援が内包されたソーシャルワークというものの意義や効果をこの11年で実感してきました。
- 現在の社会保障制度の狭間にいる生活困窮者を早い段階から支援することにより、自立した生活を送る手助けができると思います。
- 今日、明日食べるものがないといった方への経済支援等緊急性の高い相談事例において、本事業の特徴と有効性を強く感じます。
- 生死に直面した問題を支援しているのが殆どなので、『命をつなぐ』という意味では自信を持って支援にあたることができます。

②課題がある：16件 (32.0%)

- 人材不足の中でそれに時間を割くのは、本当に厳しいと言うのが実際です。
- 各CSW(コミュニティソーシャルワーカー)が専任業務で行っているわけではなく、すべて兼任で行っている為、負担があまりにも大きく、ストレスが精神的にたまる状況になっている。
- 本当にこの事業が必要であると明言できる人に支援を行いたいが、判定基準があいまいで本当に必要性があるかどうか支援を行っていて不安を感じることがあります。

③PRしていく必要がある：8件 (16.0%)

- 社会福祉法人は、自主的に公益活動を実施していることをもっと市民にPRすべきである。
- 社会福祉法人として実施すべき事業の重要性を具体的事例で示し、共通認識・理解を深めていきたい。

- 経済的支援ではない、様々な総合相談の事業であることを周りに知っていただくような取り組みが今後とも必要であると強く感じます。
- ④行政等との連携に問題がある：8件（16.0%）
 - 生活困窮者レスキュー事業について、行政の中でも「経済的援助」だけに着目されて扱われていると感じることがあります。
 - 社会福祉法人の総合相談事業は自立相談支援事業※と協働することで支援の質の充実が図れると考えます。
- ⑤自立支援を見直す：2件（4.0%）
 - 本人の状況や希望を踏まえた自立支援のために、これまでの支援のあり方を見直す時期でもあると感じています。
- ⑥東京都への期待：2件（4.0%）
 - 東京の結果は行政、政府に与える力は大なるものがあり、期待しております。

3 自由記述に関する考察

(1) カテゴリの分類に関する考察

①有効で意義もある

②PRしていく必要がある

「経済的支援が有効・意義がある」とする意見が17件ありました。一方、「課題がある」とする意見は16件でした。数が拮抗しています。「PRしていく必要がある」、「行政等との連携に問題がある」がそれぞれ8件で続きます。いずれも課題と捉えることができます。つまり、有効で意義もあるが課題も少なくないという評価です。ただし、「PRしていく必要がある」は、この事業の必要性、社会にもたらす影響に関する肯定的意見です。「有効・意義がある」とする意見17件と合計すると25件となり、自由記述50件の半数を占めることになります。

③課題がある

「課題がある」のカテゴリ中の半数にあたる8件が「人材不足による過重な負担」を訴えています。この結果は、介護人材不足の深刻化、平成27年4月の大幅な介護報酬引き下げの影響を受けていると考えられます。回答のあった全施設の78.8%が特養だからです。ただし、経済的支援の必要性や意義をすべて否定する内容ではありません。残りの8件のうち4件が「経済的支援の必要性について判定が困難である」でした。判定が困難なことが経済的支援の大きな課題のひとつではないでしょうか。

④行政等との連携に問題がある

「行政等との連携に問題がある」8件のうち5件が「行政が経済的支援をあてにする傾向が強い」ことへの不満が表れています。特に生活保護の窓口とは役割分担を明確化する必要があるでしょう。保護決定までのつなぎということが明確ならば経済的支援の必要性の判定に迷いがなくなると考えるからです。

⑤自立支援のあり方を見直す

「自立支援のあり方を見直す」は、大阪府社会福祉協議会による、「この事業の真の目的は、『あらゆる生活困窮者に対して本人に寄り添って自立を支援し生きる意欲を取り戻すこと』」という主張につながります。相談事業の出口は自立心を養うことであることを示唆しています。

⑥東社協へのエール

現在、東京都には、単身高齢者の増加、高齢者施設不足、介護・福祉人材不足の深刻化など高齢者関連だけでもさまざまな課題が山積しています。それに失業、生活困窮が拍車をかけています。こうした状況下、東京都における社会貢献事業の創設は、多くの道府県における実施に向けての機運を高めるでしょう。

※自立相談支援事業：「生活困窮者自立支援法」の必須事業のひとつ。生活困窮者の相談に応じ、アセスメントを実施して個々人の常態にあったプランを作成し、必要な支援の提供につなげる。関係機関への同行訪問や就労支援等を行う。（厚生労働省「自立支援事業の手引き」）

次号に続く

八王子ブロック会による 熊本地震 現地視察と義援金贈呈について

●東京都高齢者福祉施設協議会 八王子ブロック会 会長 しみず まさき 清水 正喜
(社会福祉法人清心福祉会 特別養護老人ホームファミリーマイホーム施設長)

八王子ブロック会では昨年11月、熊本地震発生時の高齢者福祉施設の被害と対応の視察を目的に、熊本県老人福祉施設協議会(熊本県老施協)を訪問しました。

4月14日の発災以来、半年余りが経過した熊本市内の状況は、一見すると落ち着きを取り戻しているかのようにも映りました。県内で最大約19万人といわれた避難者についても、10月末には全避難所が閉鎖されたものの、地域によっては被害の傷跡がまだ残されたままであり、市民の生活再建と地域の復興が道半ばであることがうかがえます。



原田熊本県老施協副会長(中央)に義援金を贈呈しました

現地では、熊本県老施協ならびに熊本県社会福祉協議会の皆様に対応をさせていただきながら、発災直後の状況と、その後の熊本県老施協や各施設の対応について説明を受けました。

今回の地震によって、各地の施設で建物本体や電気、水道、ガスなどのライフラインに大きな損害が発生したものの、施設の利用者自体への被害は幸い最小限の範囲にとどめられました。

しかし夜間の発災ということもあり、職員の安否確認や召集には多大な時間を要したとのこと。加えて事業継続にあたっては、折からの人材不足に加え、利用者へのサービス提供に影響が生じる可能性があったことから、熊本県老施協と全国老施協、厚生労働省等の調整による他県からの介護職員派遣が行われました。

災害時の高齢者福祉施設には、その場で生活する利用者の安全確保はもちろんのこと、地域住民の福祉避難所としての役割についても期待されています。今回の視察により、BCP(事業継続計画)整備の必要性を改めて痛感するとともに、現場施設長の状況判断が大きな意味を持つことを感じました。今後、役職員、利用者とそのご家族、地域住民、自治体行政そして近隣施設との連携による防災体制の構築が一層すすめられるよう、八王子ブロック会としても会員間の意見をうかがうなどの取組みにつなげたいと考えています。

なお今回の視察では、八王子ブロック内の皆様に呼びかけた義援金をお届けする目的も併せておりましたので、現地で熊本県老施協の原田英樹副会長に対し、金35万円を贈呈させていただきました。この場をお借りしてブロック会の皆様によるご理解とご協力に感謝を申し上げます。

熊本県の高齢者福祉施設をはじめ市民の皆様の一日も早い復興を心より願う次第です。

養護老人ホームと地域交流

●社会福祉法人 長寿村 潮見老人ホーム 施設長 おおす が かずひろ 大須賀 和宏

●積極的な地域との交流活動

社会福祉法人長寿村 潮見老人ホームは、JR京葉線潮見駅より徒歩5分の場所にある潮見1丁目アパート内にあります。アパートは、都民・都営住宅、保育園が併設される複合住宅施設です。

潮見地区は東京駅から電車で約7分の場所に位置しており、都心からのアクセスも良いことから、これからの開発が一層進むことが見込まれる地区でもあります。そのような環境の中、潮見老人ホームは平成13年11月にオープンしました。

まだ歴史が浅い施設であるため、地域に踏み込んだ活動は、手探りの状態ですが、近隣の保育園との交流や町内清掃の参加、保健所・消防署・警察署と連携した講習会などを実施、積極的に参加の呼びかけを行っています。

また、潮見地区は東京湾に近接している環境であり、大規模広域災害の発生が懸念されることから、東日本大震災以降、共助による地域防災力の強化をはかっています。その一例として、地域災害時相互応援協定組織会が結成され、定期的な活動が行われています。当施設では、特に災害時における一時避難施設としての場所の提供や、相互の応援方法などの訓練に参加しています。

●地域から頼られる施設となるために

今後の課題として、養護老人ホームという施設単体での活動のみでは様々な課題への対応が難しい場合が増えているという点があります。しかしこれからの時代においては、施設入居者だけでなく、様々な生活課題を抱える地域の高齢者への支援も行うことで、地域における役割を確立していくことが重要であり、そのための取り組みを重ねることで、地域住民からの信頼につながると思います。たとえば、地域の方々やNPOなどの市民活動団体と共同して活動する「助け合いの場」などが必要になってくるのではないのでしょうか。

そうした場では、認知症に関わる種々の相談に応じながら、メンタルサポート、行政情報の提供、介護予防などの講座を一定のペースで開催することが期待されるでしょう。こうした場づくりが実現するよう、どういう体制を組んでいけるかが検討すべき今後のテーマではないかと考えています。



36階建ての潮見1丁目アパート。
施設は1～4階です



日常の様子



様々な学習会を開催しています

子どもたちを 地域で育む

● 社会福祉法人 福音会 軽費老人ホームA型 町田愛信園
生活相談員 井田 美喜子

●子ども会とともに、地域で子どもたちを育んでいく

町田愛信園では2016年度から当法人本部（町田市野津田町）の地域活動として、地域の子ども会との交流を深める取組みを行っています。当地域では共働き世帯が多く、子ども会の活動は本来現役のお母さんが中心となって担っていくところですが、おばあちゃん世代が多忙な現役のお母さんに代わり、運営に携わっている子ども会もあります。そのような中、社会福祉法人として子どもたちを地域で育むお手伝いができればと考え、交流行事を企画、実施してきました。

- 4月 …… 竹林で筍掘りと料理教室
- 8月 …… 工作（割り箸鉄砲とビーズのアームバンド作り）
- 11月 …… 茶道体験と干し柿作り
- 1月 …… むかし遊びと恵方巻き作り

当初の参加人数は子どもと大人を合わせて20名ほどでしたが、活動の発端となった子ども会から他の子ども会に声をかけてくださった結果、複数の子ども会に活動の輪が広がってきました。1月の行事には子ども43名、大人20名の参加となり、だんだん規模が大きくなってきています。

●入居者の生きがいにつながる活動

いずれの行事でもお手伝いいただける入居者の方にはご協力いただき、筍掘りや料理、工作、茶道などの指導をしてもらったり、一緒に干し柿を作ったりして、入居者にとっても良い活動の機会となっています。

今後も定期的に子ども会と関わっていくことで、地域の様々な情報をキャッチし、より良い地域貢献活動につながればと考えております。



皆で筍を探そう!



干し柿を作るう!



長い恵方巻き作りにチャレンジ!

つながれ ひろがれ ちいきの輪 inTOKYO 今年度の振り返り

●センター分科会長 ^{こん ひろし} 今 裕司

(社会福祉法人秋川あすなる会 あすなるみんなの家 施設長)

■社会福祉法人が行う様々な活動をキャンペーンで発信

平成28年度の新規事業として立ち上げた、“東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン”「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」は、高齢者福祉施設・社会福祉法人が地域によりそう活動を行っていることを、地域の方々や行政・関係機関等に知っていただくこと、高齢者福祉施設や社会福祉法人とその職員が、活動をとおりして地域のニーズに気づき、新たな取り組みへのきっかけとなることを目標として展開してきました。

皆様のご理解ご協力のもと317団体の参加を得て、10～11月の2か月間に119の取り組みが都内各所で展開されました。

取り組み内容は、地域の方々をお招きしての食事会や交流会、介護予防教室や認知症カフェ、市民向けの学習会、災害時対応訓練など多岐にわたりました。以前から取り組んでいた活動での参加、今回のキャンペーンを機に取り組んだ活動、複数の事業所や法人での協働、地域の関係機関との協働など、様々な工夫・特色ある活動が展開されました。

キャンペーンの終了後12月21日には「ふりかえりの会」を開催し、グループワークを通じて実施しての感想や今後の展開についての課題や解決策等を共有しました。

今回のキャンペーンには参加できなかった施設からの参加もあり、来年度以降の参加に向けてのヒントが得られたようです。

また、各施設からの事業レポートからは、地域の実情や課題、今後の活動の方向性について読み取ることができ、このキャンペーンの持つ意義や可能性を改めて確認することができました。

今回の取り組みは、それぞれの事業レポートのほか、参加施設の職員と町亞聖さんとの対談などを加えた報告書としてまとめ、皆様のお手元にお届けいたします。

■次年度への抱負

実行委員会では、次年度に向けて検討・準備を進めています。初年度の最低限の目標として掲げた「100以上の取り組み」は達成できましたが、取り組み数ゼロの区市町村が10を超えているなど、都内全域での取り組みとしては不十分な状況もあります。次年度は全区市町村からの参加をいただき、東京都全域での取り組みが展開できることを願っています。

皆様の積極的な参加をお待ちしています。



ふりかえりの会では活発な意見交換が行われました



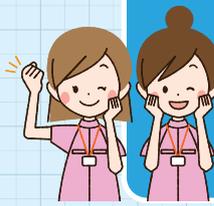
座談会メンバー 左から

町 亞聖さん(高齢協アンバサダー)

桜井和美さん(サンヴァリエ桜堤自治会)

平井美香さん(社会福祉法人 愛隣会 地域交流スペース ここからカフェ 地域福祉コーディネーター)

奈良高志さん(社会福祉法人 信愛報恩会 文京大塚みどりの郷 施設長)



東京ケアリーダーズ メンバー紹介



平成28年秋に発足した若手介護福祉士で構成する東京ケアリーダーズ。
今回から数回に渡って、選出ブロック順にメンバーを紹介していきたいと思ひます。

中央ブロック

社会福祉法人 渋谷区社会福祉事業団 渋谷区あやめの苑・代々木 でまち みな **出町 美奈**

私は介護を行う上で、思いやりの気持ちを大切に、大変なこともあります、日々笑顔忘れずに、利用者様と関わるよう取り組んでいます。介護の現場はあまり明るい事ばかりではないというイメージが強く持たれていると思ひますが、お年寄りと関わることは自分の為にもなります。介護の楽しさと、新しいイメージを今回の活動を通して様々な人に知ってもらえるように励んでいきたいと思ひています。



城北ブロック

社会福祉法人 不二体育会 ケアポート板橋 なかい まさむね **中井 政宗**

私は人と話すことが好きで、ご利用者の方々とお話をして、笑顔になってもらえる介護という仕事は本当に素晴らしい仕事だと思ひています。しかし残念ながら世間では介護という仕事はあまり良いイメージが持たれていないようです。東京ケアリーダーズに入って活動する事で、少しでも悪いイメージを変え、この仕事の素晴らしさを知ってもらうお手伝いが出来たらと思ひています。



社会福祉法人 泉陽会 新町光陽苑 てるき な たつひこ **照喜名 竜彦**

大学新卒で介護を始め、7年になります。現在はリーダーとして高齢者の笑顔や感謝の言葉を励みに日々介護に精進しています。今では自分の行っている介護の仕事に誇りが持て、やりがいも多く感じ充実しています。この「誇り・やりがい」や「介護の楽しさ」を多くの方に伝えて、介護業界が発展していく為に頑張りたいです。



城東ブロック

社会福祉法人 聖風会 特別養護老人ホーム六月 ほしの りゅういち **星野 龍一**

法人内の就職説明会などで、学生との交流をもつことが楽しく、様々な話をすることで自らも気づかされることがあります。マイナスなイメージのある業界ですが、こんな楽しいこと、やりがいがあるんだ、ということ発信していければと思ひます。



墨東ブロック

社会福祉法人 白秋会 特別養護老人ホーム泰山 うちむら みさき **内村 美咲**

東京ケアリーダーズとして、利用者様との関わりの中で感じる嬉しさや、醍醐味のあるエピソードなどをお伝えしたいと思ひます。



私の心に残るエピソード

「口から食べるということ」

● 社会福祉法人友愛十字会 砧ホーム 介護主任 やまくち こうじ 山口 公司

このお話は私がこの仕事を始めた9年前のお話です。当時私は仕事をなんとか覚えるのに必死で、1日1日があっという間に過ぎて行きました。利用者さんともどう接しているのか不安な状況の中、ある利用者さん(Kさん)から優しく声をかけていただきました。

Kさんは男性で以前は俳優をされていたこともあり、いつも身だしなみを気にされ、俳優時代の話や奥様のお話をいつも楽しそうにしてくださいました。しばらくしてKさんの担当をすることにもなり、より積極的にお話をしてくださるようになりました。

そんなある日、Kさんは肺炎で入院されました。幸いすぐに帰ってくることができましたが、胃瘻を増設しての退院で、ほぼベッド上で過ごされる生活となりました。職員と関わる時間も減り、発語も少なくなっていきました。数日が過ぎたころ、Kさんのケア中に話しかけながら「なにかやりたいことがありますか？」と伺うと、Kさんの口が動きました。

「…もう一回。…もう一回でいいから焼いた鮭が食べたい。」

その言葉はとても重く、私の心に響きました。これまで『食べたいのに食べることができない』想いを考えたこともありませんでしたし、そういった事をしっかり考えてこなかった自分を深く反省しました。



Kさんはまたすぐに肺炎で入院され、そのまま転院となってしまいました。私はKさんの想いに応えることができませんでしたが、『口から食べるということ』がいかに大切な事か、今でもその時の気持ちを忘れずにいます。

今年も開催します! /

大都市東京の介護と暮らしを考える 都民フォーラム2017 開催案内!

昨年度も開催した都民フォーラム。平成30年度介護報酬改定を見すえ今年も開催します。高齢化の現状と、これからの高齢者福祉施設についての議論をとおして、大都市東京の介護や暮らしを、一緒に考えましょう。みなさまのご来場をお待ちしております。

日時

5月23日(火) 15時~17時(予定)

※平成29年第1回総会と同日開催の予定です。

会場

イイノホール(千代田区内幸町2-1-1)

主催

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会

前は500名を超える方々に
ご参加いただきました!



よろしく
ブル



詳しい内容につきましては決まり次第ご案内いたします。

編集

後記

Active
Fukushi

今年は暖冬のはずが、都心でも氷点下となる寒波が次々とやってきていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、今号では平成28年1月に実施された特養待機者に関する実態調査での、待機者急減の現状について意見交換しています。費用負担の多いユニット型よりも従来型希望の増加、多摩西部での待機者減少などが言われています。各施設ではどのように感じておられるのでしょうか？

また、介護職員充足の実態調査も、厳しい現状を表しています。職員の処遇改善をしなければ、必要な人員確保も難しく、介護報酬減額の中、どうしていけばいいのか、悩ましい限りです。

今年も課題は山積していますが、一つの方向性を示して行ければと考えております。厳しい環境ですが、今年もよろしくお願致します。

看護職員研修委員会 プロック幹事
(飛鳥晴山苑) 星野 宣子